

## 病因病態医学講座 医動物学

## 1. 領域構成教職員・在職期間

助教	矢野 泰弘	平成1年4月—(平成19年4月より現職)
----	-------	----------------------

## 2. 研究概要

## 研究概要

日本におけるダニ類が媒介する感染症として、古くはツツガムシ幼虫によるツツガムシ病が広く知られ、1870年代から研究が開始され、多くの世界的研究成果を挙げた。ところが、1980年後半から現在までに、マダニ媒介性のいわゆる新興感染症が次々に報告され、マダニと病原体との多様な関係が明らかにされつつある。

本領域ではこれらダニ媒介性感染症の野外における病原体保有動物や媒介動物についての調査・研究を行い、それらの感染環を明らかにすることを目的としている。具体的には疾病発生地において、植生上のダニを採集し、その季節的消長を確認し、独自に開発した方法によって病原体をダニ体内から検出する。同時に病原体保有動物である野鼠類や小型哺乳類を捕獲し、ダニ類の寄生状況や、各種病原体に対する血清抗体価を調べる。これらの結果を総合して当地における病原体の浸透度を推察し、住民に対するダニ媒介性感染症に関する啓発活動をする上での根拠を提示している。

## キーワード

ツツガムシ、マダニ、ツツガムシ病、紅斑熱リケッチア症、ライム病、重症熱性血小板減少症候群、感染環、季節的消長、病原体媒介能力、病原体検出

## 業績年の進捗状況

## ◎事業年度の進捗状況

- (1) 「重症熱性血小板減少症候群のマダニ媒介サイクルの解明」において、野鼠を含む野生動物のSFTSウイルスに対する血清抗体価の測定に取り組んだ。野生動物のSFTSウイルスに対する血清抗体価の測定によって、地域ごとの感染圧の推定を行っている。
- (2) 日本紅斑熱リケッチアのマダニ体内における存在様式を電顕観察によって明らかにし、リケッチアの経期感染を証明した。
- (3) 北陸日本海側で発掘されたダニ媒介感染症と背景の寄生性ダニ相調査を行った。

## 特色等

近年の病原体の検出法の発達と普及によって、今後も、潜在するマダニ媒介性感染症が国内で確認され続けることが予想される。そういった場合に、我々が現在行っている研究手法、すなわちフィールド調査と研究室での分析、また皮膚科的検索を一体化してダニ媒介感染症を解明するという方法論は1つのスタンダードになり得るものと考えられる。

## 本学の理念との関係

我々の研究成果は以下の第3期（平成28年度～令和3年度）中期目標に該当する。

## 3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ① 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。

## 3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2016～2021年分	2022年分	2016～2021年分	2022年分
和文原著論文	2	0	—	—
英文論文	ファーストオーサー	0	0(0)	0(0)
	コレスポンディングオーサー	0	0	0(0)
	その他	0	0	0(0)
	合計	0	0	0(0)

## (A) 著書・論文等

## (1) 英文：著書等

## a. 著書

## b. 著書（分担執筆）

## c. 編集・編集・監修

## (2) 英文：論文等

## a. 原著論文（審査有）

## b. 原著論文（審査無）

## c. 原著論文（総説）

## d. その他研究等実績（報告書を含む）

## e. 国際会議論文

## (3) 和文：著書等

## a. 著書

## b. 著書（分担執筆）

## c. 編集・編集・監修

## (4) 和文：論文等

## a. 原著論文（審査有）

## b. 原著論文（審査無）

## c. 総説

## d. その他研究等実績（報告書を含む）

## e. 国際会議論文

## (B) 学会発表等

## (1) 国際学会

## a. 招待・特別講演等

## b. シンポジスト・パネリスト等

## c. 一般講演（口演）

## d. 一般講演（ポスター）

## e. 一般講演

## f. その他

業績一覧

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

2224001

矢野 泰弘、岩崎博道、廣田 智哉、石畝 史、高田 伸弘：福井県嶺北地方における日本紅斑熱の初確認とマダニ相について、第77回日本衛生動物学会西日本支部大会、第17回日本衛生動物学会西日本支部例会、20221113

2224002

矢野 泰弘：福井県嶺北地方における日本紅斑熱の初確認とマダニ相について、第13回日本リケツチア症臨床研究会、20230204

2224003

石畝 史、矢野 泰弘、高田 信弘：福井県の両白山地におけるIxodes属マダニ生息状況、第29回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー（SADI）、20220625

2224004

高田 伸弘、及川 陽三郎、石畝 史、夏秋 優、矢野 泰弘、小川 基彦：邦産カクマダニ属は台湾出じゃなく美ら人、第29回ダニと疾患のインターフェイスに関するセミナー（SADI）、20220625

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

2224005

石畝 史、矢野 泰弘、高田 信弘：福井県の両白山地におけるIxodes属マダニ生息状況、第39回北陸病害動物研究会、20220702

2224006

高田 伸弘、及川 陽三郎、石畝 史、夏秋 優、矢野 泰弘、小川 基彦：邦産カクマダニ属はtaiwanensisではなくbellulusです、第39回北陸病害動物研究会、20220702

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研究費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）

区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地

(B) 学会の要職

学会の名称	役職	氏名
日本衛生動物学会	監事	矢野 泰弘
日本ダニ学会	会長	矢野 泰弘
日本感染症学会	一般会員	矢野 泰弘
日本寄生虫学会	一般会員	矢野 泰弘

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員の別	氏名	査読編数